



スマートストアって？

◆小売店のD X／運営効率化でレジ待ち減らす

Q－「スマートストア」とは何かしら。

A－「人工知能（A I）カメラやセンサー、無人決済システムなどの最新技術を使って運営の効率化と省人化を進めている小売店舗のことです。お客さんにとってはレジに並ぶ手間が省け、お店側にとっても販売員の人手不足を補うことができます」

Q－これまでなかったタイプのお店なのね。

A－「セルフレジや自動精算機を備えた店舗は増えていますが、それでもレジが混み合う時間帯は長い列ができることもあります。富山市では、2024年7月にショッピングカートとセルフレジ機能を一体化したディスカウントストアがオープンし、話題になりました。プリペイドカードを事前に登録し、会計ゲートを通ることで自動的に決済が行われるため、レジ待ち時間はほぼなくなります。ただ、セルフレジ機能そのものが苦手な人もおり、服や生鮮食品の読み取りが難しいという意見もあります」

Q－もっと簡単な方法はないの。

A－「アパレル業界では、電子情報を記録した値札タグを一瞬で読み取って会計を済ませる仕組みを導入しているお店が既にあります。一方、単価の安い食料品や日用雑貨を扱うスーパーにとっては大きな負担となるため、電子タグの普及は限定的といえるかもしれません。北陸では、A I搭載カメラと重量センサーを搭載した商品棚を設置し、客が手に取った品を自動認識して決済する果物店が24年10月、福井市に登場しました。子どもからお年寄りまで簡単に買い物ができ、少ない人員でもお店を運営できるとして期待が高まっています」



富山市内にオープンした「スーパーセレクトトライアル 富山マイプラザ店」＝2024年7月

Q－課題はあるかしら。

A－「最も大きな問題は、システム導入の初期費用です。店側の人員不足を補うだけでなく、売れ筋商品の把握など販売増につなげる使い方が求められます。普段の買い物情報からおすすめ商品を提示するなど、お客さんを引きつける工夫があってもいいかもしれません」

（この連載は北陸経済研究所の辻野秀信が担当しました）